



社会福祉法人 美熊野福祉会  
知的障害者更生施設 杉の郷



〒647-1214 東牟婁郡熊野川町赤木1522-1  
TEL 0735-45-2314 FAX 0735-45-2001  
ホームページアドレス <http://www.za.ztv.ne.jp/sugi2001/>  
メールアドレス [sugi2001@za.ztv.ne.jp](mailto:sugi2001@za.ztv.ne.jp)

## ご挨拶

杉の郷施設長 里際 登

平素は「杉の郷」に対しまして何かとご高配を賜り厚くお礼申し上げます。  
この度、平成17年4月から施設長として就任させていただき大変重責を感じています。

「杉の郷」は昭和59年4月に障害者家族、関係者、ボランティア等により施設づくりの準備を始め、昭和63年9月に開園、おかげをもちまして18年目を迎える事ができました。これもひとえに赤木区の皆様をはじめ、多くの皆様のご指導、ご支援があつての事と心より感謝申し上げます。

当施設は開園当初からの方針である「四つの目標、五つの約束」を基に  
(1)利用者の基本的な生活習慣と社会的自立を図る。(2)職員は研修に参加して資質の向上を図る。(3)福祉の理念である「ノーマライゼーション」に基

づき、自活訓練を経て地域生活移行に努めていく。(4)家族、地域の人との交流を図る。を目標にして取り組んでいます。

利用者支援に関しては、個別支援計画を作成し、利用者の各種検診等を行い、健康状態を把握し、疾病の早期発見と予防に努め、生活の質の向上を目指し取り組んでいます。

また、施設内外のレクリエーションや行事等を通して、家族や地域の人々との交流を深め、あらゆる機会を通じて地域福祉に貢献したいと思っています。

今後も、教職の道を歩んできた経験を少しでも生かし、微力ながら地域障害児者のために努力したいと存じますので、今後とも皆様方の一層のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 紀伊長島旅行

キャンプに  
チャレンジ!

紀伊長島でのキャンプは、7月13日から1泊2日、利用者ご家族14名と職員7名、合計21名の参加で行われました。

キャンプの感想を述べさせて頂く前に、この旅行の主旨とこれまでに至る経緯についてお話させて頂きます。これまで利用者の方に行き先を選択してきて頂いたことで、新たな旅行先の希望が聞かれるようになりました。多方面の旅行を実施してきた経緯と実績から新たに自炊を含むキャンプ場での旅行を企画すること、また、施設内で毎年2回行われてきたバーベキューなどの野外給食の発展する形としても、適切な場面としてキャンプ実施への機が熟したものと思われまふ。とはいってもアミューズメントパークの利用やホテルでの宿泊など、旅行者の快適性にも高く配慮された行き先とは趣向を異とし、自炊食材の自己調達や宿泊するバンガローにはアメニティーセットやタオル、浴衣などいっさい用意されていないことなど、これまでの他の旅行とは頭を切り替えていく必要がありました。また、旅行で企画したバーベキューや地引き網など天候の影響を受けやすいことも含め、いかに与えられた状況を楽しめるかがこの旅行の主旨でありました。



1日目、朝杉の郷を出発し、尾鷲にて昼食後、一路「紀伊長島の孫太郎オートキャンプ場」を目指しました。キャンプ場では、一旦ご家族毎に一棟ずつ割り当てられたバンガローへ別れて頂き、各参加者でゆったりとした時間を過ごしました。バンガローでは移動車中の疲れを癒されるご家族、早速周辺のキャンプ場の散策に出かけるご家族など、他の旅行参加者との団体行動を気にすることなく、思いおもいの時間を過ごされたようでした。そのような時間を取りながらいよいよ食事づくりの開始です。初日の自炊メニューはキャンプの定番カレーライスでした。勝手のわからない炊事場で右往左往

☆おいしい☆



するところから始まったカレー作りも、厨房職員を含む女性陣と、なによりも調理を楽しみにしていました利用者とそのご家族の参加により、和気あいあいとカレー作りを進める事が出来たようです。料理のごしらえから配膳、後片付けまで旅行に参加した方々が積極的に働いて頂いたことがとても嬉しく、感謝の気持ちで一杯でした。食後はスイカ割りも行い、普段は控えめなご家族の方にも容赦なく棒を持って頂き、場面を盛り上げるのに一役買って頂きました。皆で楽しい時間を過ごした後、家族みずいらずゆったり過ごされた方や、すぐに寝てしまうのがもったいないかのように職員の泊まるバンガローへ集まり宴会を始めた方々など、大いに親睦を深めることが出来たように思われま

す。夜が明け2日目の朝は早く、皆6時起床、朝食後、井田の浜地引き網体験へ向いました。台風の影響による海上の様子と、網の設置が心配されるなか実施が決まり、杉の郷利用者と赤木区の方々20名の応援を頂き、無事行うことができました。多くの参加者が地引き網初体験ということで、どのような魚が捕れるのか、どのくらいの量になるのが最後まで引いてみないと分からないところが皆の好奇心を駆り立て、童心に返ったように無心で網を引きました。結果はハモ、アジなど中にはサメやイカも混ざり大漁でした。地引き網の興奮も覚めやらぬうちに、昼食場所である熊野市少年自然の家へ移動しました。そこでも自分たちで食事テーブルのレイアウト、盛り付けと配膳、焼肉などを行いました。そして前日のカレー作りにも増して更に職員、ご家族の垣根を越えた一緒に自分たちの食事を作るという関係を垣間見たような気がいたしました。

無事に旅行を終え、キャンプ形式の旅行は他の旅行とは趣向を異とし、参加者が一体となって旅行を盛り上げていける要素があるということ、かといって団体行動にとられることが比較的少なく時間的なゆとりも得られる利点があるものと考えられました。

最後にあらためて、参加して頂きました利用者のご家族の方々、赤木区の皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



## さをり織りチーム

現在男子2名、女子5名の利用者が毎週火曜日にさをり織りを行っています。4名の利用者はタテ糸づくりで、整経台に糸をかける作業から織り機のローラー巻き取り作業まで、職員の手を一部借りながら行えるようになりました。自分の好きなヨコ糸を選び、自分で



自由に織り始めます。織り上がった布は袋などに加工してお店で販売させてもらっています。

## 作陶チーム

現在7名の利用者で行っています。作業では個人の好きな作品を作っていたのが基本になっています。作業に参加している人たちのほとんどの方が成形を中心に行っています。成形については、本人のひらめきで作ってもらっています。既成の感性だけでなく、そのひらめきの部分が面白い作品になる事もあります。

素焼き、本焼きなど、その他の工程に関しては、安全面の上でも現在は職員のみでおこなっています。各種団体の陶芸教室も開催しておりますので利用して頂きたいと思います。



# 作業班

現在、お茶パックチームでは色川産の無農薬ほうじ茶(粉茶)をティーパックに入れる作業を8名の利用者が行っています。作業工程はティーパックにお茶を入れる、そのパックを計量する等、各自作業を分担して行い、出来上がったお茶は町内では杉っ子やかあちゃんの店にて一袋500円(税別)で販売いたしております。また、杉の郷が出店するバザー等でも販売いたしておりますので一度ご賞味下さい。お茶にはビタミンCが多く含まれ健康・美容に良いとされています。毎日飲むお茶だからこそ有機無農薬茶をおすすめします。



## お茶パックチーム

## グループホーム

杉の郷では、以前から自活体験、自活訓練を行っていましたが、平成15年度より自活訓練事業として県の補助を受け、具体的にグループホームの生活を想定した取り組みを行っています。地域でふつうの生活、個人の自由が確保された生活をするわけですが、必要最小限のマナーは守り、一人一人のニーズにも対応できるようにと考えて

おります。現在外出するときは、世話人か杉の郷職員が同行する事が多いですが、公共交通機関などを利用して、自分自身で自由に外出できるようになればいいなあと思います。グループホームは、それぞれ世話人が2名と、杉の郷職員2名以上がかかっています。いくぶん支援する側も要領を得てきたという感じですが、よりいっそう利用者のニーズを考えた多種多様の取り組みへと対応できるよう、支援させていただくスタッフ一同努力していきたいと考えております。今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

## ほっとホーム

平成14年10月、グループホーム「ほっとホーム」が新宮市高田にスタートして、2年11ヶ月が経ちました。利用者の一部入れ替わりもありましたが、現在4名の利用者が暮らしています。旧民家をリフォームしたグループホームですが、開設後も床の張替え、トイレの増設など、できるだけ利用者が快適に過ごしていただけるよう、できる範囲でリフォームを進めております。昼間の活動は、障害児者支援センター「虹」へ送迎バスで通所している方が3名、今年から高等技術専門学校へ通学している方が1名となっています。休みの日は、掃除や洗濯、買物や外食、ドライブなど自由に過ごしております。



## ホームさんさろ

平成16年10月、グループホーム「ホームさんさろ」が熊野川町日足神丸に開設されました。スタートして11ヶ月が経ちましたが、ようやく生活のペースに慣れてきたようです。2階建ての建物は、個室以外にリビングをかねた広いダイニングキッチン、1・2階にそれぞれ洗面所とトイレが設置され、ゆとりのある生活空間となっています。昼間の活動は障害児者支援センター「虹」へ通所されている方が2名、養護学校へ通学されている方が1名、杉の郷で就労されている方が1名となっています。休みの日は、「ほっとホーム」と内容は同じですが、週末に一時帰省される方もおり、のんびりと自由に過ごしています。

